

年 組 名前：

富士噴火避難誘導 5G通信使い訓練 夏山シーズン控え県警

山梨県警と富士山の観光関係者らでつくる「富士スバルライン自主防災協議会」は4日、富士山噴火に備えた訓練をした。第5世代（5G）移動通信システムを訓練で初めて活用し、関係団体が情報共有を図りながら、外国人観光客や登山者の避難誘導の流れを確認した。

気象庁が噴火警戒レベル3（入山規制）を発表し、富士山有料道路（富士スバルライン）上で火山性地震が発生したとの想定で実施。県警や協議会、県や富士吉田市の関係者ら約180人が参加した。情報共有の訓練では、災害時の通信に活用するため、県と東京大が研究を進めている5Gの技術を利用。衛星通信とローカル5Gによる独自の通信網を使い、5合目総合管理センターと県警本部、県庁などをビデオ会議システムでつないだ。

5合目に滞在している外国人観光客に県警が考案したピクトグラム（絵文字）を見せ、避難指示を出したり、地震により通行できない富士スバルラインの代わりに、滝沢林道から避難したりする訓練もあった。



ピクトグラムを使い、外国人観光客に避難指示を出す警察官＝富士山5合目

し、協議会の小佐野昇一会長は「観光客へ情報をどのように伝えるか、難しさを実感した。課題点も見えてきたので今後につなげていきたい」と語った。
〈飯野終平〉



QRコードから動画を
見られます

(2024年6月5日付 山梨日日新聞 23面)

問1

富士スバルライン自主防災協議会は、なにを活用して、富士山噴火に備えた訓練を行いましたか。

.....

問2

約180人が参加した訓練は、どのような災害の想定で実施しましたか。

.....

問3

訓練では、外国人観光客に対して、どのようにして避難指示を出しましたか。

.....

問4

学校や地域で、さまざまな訓練があります。あなたは、訓練がなぜ必要だと考えますか。

.....